



黒岩探訪

たんぼ

41

KUROIWA
くろいわ

黒岩の「小字」名4 「畑」

小字名シリーズの四回目です。黒岩探訪26号で示したように黒岩には、全部で75の小字名があります。これを次のようにグループ分けしました。「谷津」「田」「畑」「山」「川・用水」「坂道」「寺社等」です。そして、黒岩探訪29号で「谷津」「田」、同38号で「寺社等」に関わる十王山、同39号で「川・用水」を取り上げました。

今回は、「畑」に関する小字を取り上げます。北の安中市に接する所に「東から」原、大坂原、西原、原、「共和公会堂辺りの」畑中、「芹田の東に」上ノ原「西に」西原「の七つを挙げました。」「畑中」は文字通り畑の中を示しています。それ以外は、すべて「原」が付きます。これらは、畑に「関係がある」と思っています。安中市との境に四つ並んでいますが、これはここだけではなく、西は妙義山の麓まで「上原」「中原」「下原」を初め「○○原」が延々と続きます。私の地元でも「下原」と書いて「しもつばら」と呼んでいる所があります。これらの中には、共通点があります。土壌は、関東ローム層がもたっているという事です。

しかも、通常畑が広がっています。農家の方が「原地（はらじ）の土は軟らかくていい。」などと言えば、それはローム層（火山灰層）を起源とする畑を指していると考えてよいと思います。また、一般的に「赤土」という言い方もしていると思います。この土壌は、小石や河川を起源とする粘土質土壌を含まないため農作業もしやすく、こんにやくいもや深く伸びるごぼう作りなどに向いています。妙義山麓から、安中市野殿にかけての中野谷丘陵は、浅間山が噴火してきた時の堆積物である火山灰土壌で大規模な発掘調査で、富岡市のローム層はほぼ二万五千年前から一万三千年前にかけて堆積したものであることが分かっています。時代的な黒岩との関連では、オオツノシカの息していた時代になります。



原の畑の様子